



四月馬鹿^ほ惚^ぼれたり^{とほ}惚^ぼけたり^{とほ}惚^ぼけたり

青木輝子

相手に惚れ込んで夢中になると、冷静な判断ができずボケてしまう。周りに迷惑をかけて苦情を言われてもトボけて知らん顔。「惚」の三段活用。



しらすぼし千の命を噛む夕餉

敷島鐵嶺

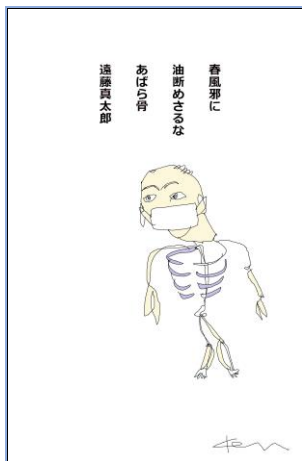
シラスを食べていると巨人になった気分である。しかし、ガシガシと噛みながら、一匹一匹が命だったのだと思うと何だか申し訳ない気持ちになる。



老眼鏡拭いても大根にしっぽあり

鈴木和枝

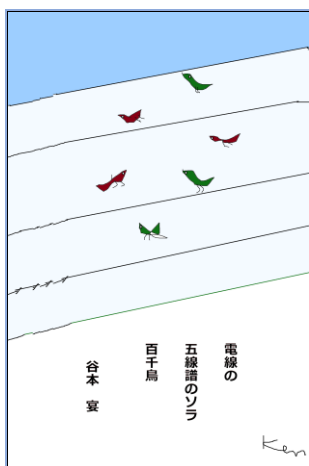
大根の先っぽに細長い根っこがある。大根そのものが「根」だから、これはしっぽである。ちなみに、サツマイモは「根」だが、ジャガイモは「茎」である。



春風邪に油断めさるなあばら骨

遠藤真太郎

くしゃみや咳で肋骨を骨折したり、ぎっくり腰になる人もいる。こうなると内科に整形外科も受診となる。たかが春の風邪と甘く見ちゃいかん。



電線の五線譜のソラ百千鳥

谷本 宴

電線に並んだ百千鳥を五線譜の音譜と見立てた楽しい作品。「ソラ」はその音階と言うわけだ。楽譜に書き写したら、どんな曲になるだろうか。



雛あられお醤油色の食卓へ

渡部美香

普段の食卓には色彩がない。ところが突然「雛あられ」が持ち込まれた。お醤油色の食卓が一変、カラフルで華やかに。食卓に春の花が咲いたよう。